

## 第 1 回 桑名市小児医療対策会議資料

### 議事（1）桑名市の小児医療の現状と課題について

- ・（資料 1）小児人口予測と推計患者数 （P 1）
- ・（資料 2）国民健康保険加入小児の年齢区分別医療機関受診状況 （P 2）
- ・（資料 3）小児科医師数の比較 （P 3）
- ・（資料 4）桑名市民の市外医療機関受診者数 （P 4～7）
- ・（資料 5）小児救急搬送者数 （P 8～13）
- ・（資料 6）くわな健康・医療相談ダイヤル 24 利用実績 （P14）
- ・（資料 7）桑名市母子保健事業に係るデータ等 （P15）
- ・（資料 8）兵庫県立柏原病院の小児科を守る会について （P16～18）
- ・（資料 9）小児医療を守ろう会質問書、ちらし （P19～20）
- ・（資料 10）ナーシングホームもも 代表者 福本さんからの聞き取り （P21）
- ・（資料 11）市内（一部いなべ市含む）医療機関分娩件数 （P22）

### 議事（2）桑名市の小児医療体制への提言に向けてご議論頂きたい事項について

- ・（資料 12）桑名市の小児医療体制への提言に向けてご議論頂きたい事項について  
（P23）

### その他に関するもの

- ・（資料 13）桑名市小児医療対策会議スケジュール（案） （P24）

## 小児人口予測と推計患者数

小児(15歳未満)人口推移

(単位:人)

	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
総人口	138,963	141,011	141,376	140,462	138,525	135,790	132,366
15歳未満人口	21,434	20,463	18,484	16,745	15,481	14,732	14,118

※小児人口推移(三重県)

(単位:人)

	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
15歳未満人口	267,072	249,347	223,842	199,329	181,976	171,316	162,035

平成17年(2005年)患者調査

(単位:千人)

三重県	入院	外来
0~4歳	0.2	5.0
5~14歳	0.3	5.2
15歳未満	0.5	10.2

小児推計患者数推移

(単位:人/日)

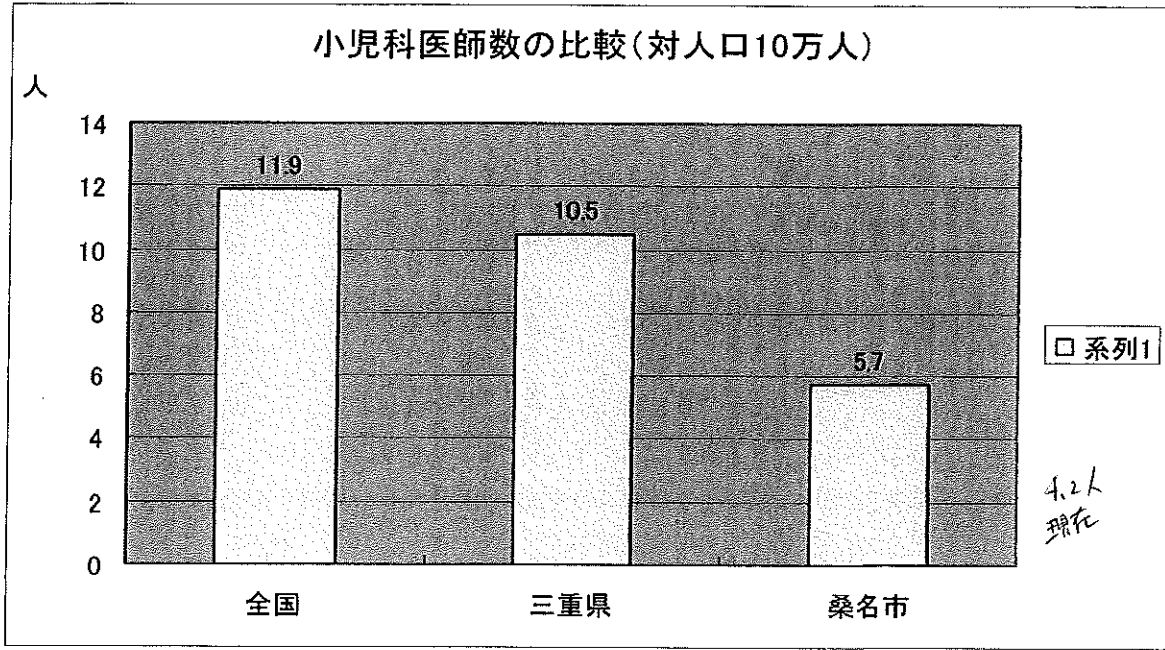
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
入院	40.1	38.3	34.6	31.3	29.0	27.6	26.4
外来	818.6	781.5	705.9	639.5	591.2	562.6	539.2

※桑名市小児推計患者数 =  $\frac{\text{三重県小児患者数} \times 1000}{\text{三重県小児人口}} \times \text{桑名市小児人口}$

国民健康保険加入小児の年齢区分別医療機関受診状況

年齢区分	21年						22年					
	入院			外来			入院			外来		
	被保険者数	件数	受診率	被保険者数	件数	受診率	被保険者数	件数	受診率	被保険者数	件数	受診率
0歳	157	92	59	157	1,221	778	153	124	81	153	1,332	871
1歳	156	19	12	156	1,524	977	145	28	19	145	1,464	1,010
2歳	173	13	8	173	1,436	830	149	11	7	149	1,310	879
3歳	179	10	6	179	1,568	876	168	5	3	168	1,659	988
4歳	177	21	12	177	1,469	830	175	11	6	175	1,583	905
5歳	193	12	6	193	1,500	777	176	10	6	176	1,427	811
6歳	182	9	5	182	1,235	679	189	10	5	189	1,443	763
7歳	190	3	2	190	1,110	584	180	5	3	180	1,105	614
8歳	196	4	2	196	1,081	552	191	6	3	191	1,134	594
9歳	208	11	5	208	1,108	533	189	3	2	189	1,029	544
10歳	216	3	1	216	983	455	204	3	1	204	1,058	519
11歳	215	10	5	215	976	454	209	4	2	209	926	443
12歳	197	1	1	197	767	389	202	3	1	202	938	464
13歳	206	7	3	206	778	378	188	15	8	188	774	412
14歳	202	11	5	202	861	426	208	2	1	208	704	338
合計	2,847	226	8	2,847	17,617	619	2,726	240	9	2,726	17,886	656

平成23年12月、国民健康保険データを基に桑名市地域医療対策室で作成



平成20年12月末現在 厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」より

桑名市民の市外医療機関受診者数

資料4

海南病院

小児科

(単位:人)

区分		平成22年			平成23年		
		8月	9月	10月	8月	9月	10月
平日 時間内	受診者数				219	230	268
	うち入院者数				13	13	10
平日 時間外	受診者数				42	33	44
	うち入院者数				3	2	5
休日 (日曜・祝日)	受診者数				5	13	20
	うち入院者数				0	3	4

※救急搬送者含む

産(婦人)科〔周産期のみ〕

(単位:人)

区分		平成22年			平成23年		
		8月	9月	10月	8月	9月	10月
平日 時間内	受診者数						
	うち入院者数						
平日 時間外	受診者数						
	うち入院者数						
休日 (日曜・祝日)	受診者数						
	うち入院者数						

※救急搬送者含む

平成23年12月海南病院からの情報提供により桑名市地域医療対策室で作成

## 桑名市民の市外医療機関受診者数

市立四日市病院

小 児 科

(単位:人)

区 分		平成22年			平成23年		
		8月	9月	10月	8月	9月	10月
平日 時間内	受診者数	55	43	28	54	54	46
	うち入院者数	6	4	2	6	7	8
平日 時間外	受診者数	8	9	7	10	9	8
	うち入院者数	1	2	2	1	2	3
休日 (日曜・祝日)	受診者数	4	1	7	2	4	7
	うち入院者数	2	0	1	0	2	1

※救急搬送者含む

産(婦人)科〔周産期のみ〕

(単位:人)

区 分		平成22年			平成23年		
		8月	9月	10月	8月	9月	10月
平日 時間内	受診者数	49	36	48	58	77	62
	うち入院者数	4	2	3	2	5	3
平日 時間外	受診者数	0	1	1	1	1	0
	うち入院者数	0	1	1	1	0	0
休日 (日曜・祝日)	受診者数	1	0	0	2	1	2
	うち入院者数	0	0	0	0	0	2

※救急搬送者含む

平成23年12月市立四日市病院からの情報提供により桑名市地域医療対策室で作成

## 桑名市民の市外医療機関受診者数

### 県立総合医療センター

#### 小児科

(単位:人)

区 分		平成22年			平成23年		
		8月	9月	10月	8月	9月	10月
平日 時間内	受診者数	25	29	21	25	25	25
	うち入院者数	不明			不明		
平日 時間外	受診者数	2	1	2	0	2	3
	うち入院者数	不明			不明		
休日 (日曜・祝日)	受診者数	0	0	1	0	2	0
	うち入院者数	不明			不明		

※救急搬送者含む

#### 産(婦人)科〔周産期のみ〕

(単位:人)

区 分		平成22年			平成23年		
		8月	9月	10月	8月	9月	10月
平日 時間内	受診者数	92	110	104	79	80	67
	うち入院者数	不明			不明		
平日 時間外	受診者数	1	0	2	0	0	1
	うち入院者数	不明			不明		
休日 (日曜・祝日)	受診者数	0	1	0	0	0	0
	うち入院者数	不明			不明		

※救急搬送者含む

平成23年12月県立総合医療センターからの情報提供により桑名市地域医療対策室で作成

## 桑名市民の市外医療機関受診者数

### いなべ総合病院

#### 小児科

(単位:人)

区 分		平成22年			平成23年		
		8月	9月	10月	8月	9月	10月
平日 時間内	受診者数	51	35	34	53	41	53
	うち入院者数	4	2	0	2	1	4
平日 時間外	受診者数	1	0	1	1	0	2
	うち入院者数	1	0	0	0	0	0
休日 (日曜・祝日)	受診者数	6	5	3	3	4	2
	うち入院者数	0	0	0	0	0	0

※救急搬送者含む

#### 産(婦人)科〔周産期のみ〕

(単位:人)

区 分		平成22年			平成23年		
		8月	9月	10月	8月	9月	10月
平日 時間内	受診者数	33	32	29	37	43	34
	うち入院者数	3	2	3	1	3	1
平日 時間外	受診者数	0	0	1	1	0	3
	うち入院者数	0	0	1	1	0	3
休日 (日曜・祝日)	受診者数	0	1	0	0	0	1
	うち入院者数	0	1	0	0	0	1

※救急搬送者含む

平成23年12月いなべ総合病院からの情報提供により桑名市地域医療対策室で作成



## 15歳未満傷病者月別搬送者数

(単位:人)

収容医療機関名	平成22年												計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
山本総合病院	30	16	27	11	32	25	19	31	20	17	23	31	282
桑名市民病院	3	1	3	6	7	8	4	7	4	12	3	2	60
青木記念病院	3		7	6	5	1	2	8	2	4	2	6	46
ヨナハ総合病院	2		1	4	4	2	1	4	4	0	3	2	27
いなべ総合病院	5	6	6	1	5	9	9	4	2	4	4	9	64
その他市内(いなべ市含)			1	2	3	2	2	1	2			1	14
市立四日市病院	0	4	3	3	2	2	2	1	1	5	0	0	23
県立総合医療センター	1	2	0	2	1	1	1			2	0	2	12
その他市外	1		1	3	2		1	1	2		2	2	15
海南病院	1	2	5	5	4	6	4	1	6	6	4	11	55
その他県外				2			1		2			1	6
合計	46	31	54	45	65	56	46	58	45	50	41	67	604

(単位:人)

収容医療機関名	平成23年												計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
山本総合病院	25	11	30	26	22	22	13	4	2	3	3		161
桑名市民病院	3	2	3	5	4	3	9	4	3	6	5		47
青木記念病院	2	8	5	7	5	6	5	3	8	8	4		61
ヨナハ総合病院	1	3	3		5	1	2	4	2	1	2		24
いなべ総合病院	6	1	1	4	3	1	4	4	7	4	1		36
その他市内(いなべ市含)			1	2	1	3	2	8	5	2	3		27
市立四日市病院	2		5	3	3	5	8	6	5	5	9		51
県立総合医療センター	1	1	1	1	2	1	5	3	3	3	1		22
その他市外				2	1	1	1	0	1				6
海南病院	2	5	8	5	7	9	25	23	16	22	21		143
その他県外	1	1	3	1	2	2	4	2	1				17
合計	43	32	60	56	55	54	78	61	53	54	49	0	595

15歳未満傷病程度別搬送者数

(単位:人)

収容医療機関名	平成22年1月～12月					計
	軽症	中等症	重症	死亡	その他 (診断未確定等)	
山本総合病院	160	120		2		282
桑名市民病院	45	15				60
青木記念病院	38	7	1			46
ヨナハ総合病院	26	1				27
いなべ総合病院	57	5		1	1	64
その他市内(いなべ市含)	9	5				14
市立四日市病院	8	12	3			23
県立総合医療センター	0	5	7			12
その他市外	9	4	2			15
海南病院	30	18	5	2		55
その他県外	2	3	1			6
合計	384	195	19	5	1	604
	63.6%	32.3%	3.1%	0.8%	0.2%	

軽症	入院を要しない
中等症	3週間未満の入院
重症	3週間以上の入院

(単位:人)

収容医療機関名	平成23年1月～7月末まで					小計	平成23年8月～11月末まで					小計	合計
	軽症	中等症	重症	死亡	その他 (診断未確定等)		軽症	中等症	重症	死亡	その他 (診断未確定等)		
山本総合病院	81	68				149	10	2				12	161
桑名市民病院	23	6				29	15	2	1			18	47
青木記念病院	34	2	1	1		38	19	4				23	61
ヨナハ総合病院	15					15	8	1				9	24
いなべ総合病院	19	1				20	15	1				16	36
その他市内(いなべ市含)	9					9	18					18	27
市立四日市病院	12	10	4			26	14	11				25	51
県立総合医療センター	3	9				12	6	2	2			10	22
その他市外	3	2				5	1					1	6
海南病院	38	15	6	2		61	64	11	5	2		82	143
その他県外	7	3	4			14	2		1			3	17
合計	244	116	15	3	0	378	172	34	9	2	0	217	595
	64.6%	30.7%	4.0%	0.8%	0.0%		79.3%	15.7%	4.1%	0.9%	0.0%		

市外医療機関時間帯別搬送者数

平成23年8月

(単位:人)

医療機関名	平日昼間	平日夜間	休日昼間	休日夜間
いなべ総合病院	4			
市立四日市病院	3	2		1
県立総合医療センター	1	1		1
海南病院	10	10	1	2

平成23年9月

(単位:人)

医療機関名	平日昼間	平日夜間	休日昼間	休日夜間
いなべ総合病院	7			
市立四日市病院		2	2	1
県立総合医療センター	1	1		1
海南病院	10	2	2	2

平成23年10月

(単位:人)

医療機関名	平日昼間	平日夜間	休日昼間	休日夜間
いなべ総合病院	3	1		
市立四日市病院	3	1		1
県立総合医療センター	1	1		1
海南病院	6	9	4	3

市外医療機関時間帯別搬送者数

平成23年11月

(単位:人)

医療機関名	平日昼間	平日夜間	休日昼間	休日夜間
いなべ総合病院	1			
市立四日市病院	2	6	1	
県立総合医療センター		1		
海南病院	7	7	4	3

市外医療機関 傷病程度別・時間帯別搬送者数

平成23年8月

(単位:人)

医療機関名	軽 症				中 等 症				重 症				死 亡			
	平日 昼間	平日 夜間	休日 昼間	休日 夜間	平日 昼間	平日 夜間	休日 昼間	休日 夜間	平日 昼間	平日 夜間	休日 昼間	休日 夜間	平日 昼間	平日 夜間	休日 昼間	休日 夜間
いなべ総合病院	4															
市立四日市病院	3	1		1		1										
県立総合医療センター		1		1					1							
海南病院	5	8	1	2	3				2	1				1		

平成23年9月

(単位:人)

医療機関名	軽 症				中 等 症				重 症				死 亡			
	平日 昼間	平日 夜間	休日 昼間	休日 夜間	平日 昼間	平日 夜間	休日 昼間	休日 夜間	平日 昼間	平日 夜間	休日 昼間	休日 夜間	平日 昼間	平日 夜間	休日 昼間	休日 夜間
いなべ総合病院	7															
市立四日市病院		1				1	2	1								
県立総合医療センター	1			1	1											
海南病院	8	2	2	2	2											

平成23年10月

(単位:人)

医療機関名	軽 症				中 等 症				重 症				死 亡			
	平日 昼間	平日 夜間	休日 昼間	休日 夜間	平日 昼間	平日 夜間	休日 昼間	休日 夜間	平日 昼間	平日 夜間	休日 昼間	休日 夜間	平日 昼間	平日 夜間	休日 昼間	休日 夜間
いなべ総合病院	2	1			1											
市立四日市病院				1	3	1										
県立総合医療センター				1		1			1							
海南病院	4	7	4	2	2	1				1		1				

市外医療機関 傷病程度別・時間帯別搬送者数

平成23年11月

(単位:人)

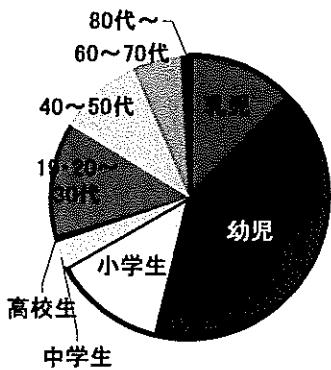
医療機関名	軽 症				中 等 症				重 症				死 亡			
	平日 昼間	平日 夜間	休日 昼間	休日 夜間	平日 昼間	平日 夜間	休日 昼間	休日 夜間	平日 昼間	平日 夜間	休日 昼間	休日 夜間	平日 昼間	平日 夜間	休日 昼間	休日 夜間
いなべ総合病院	1															
市立四日市病院	2	5				1	1									
県立総合医療センター		1														
海南病院	5	5	4	3	2	1								1		

くわな健康・医療相談ダイヤル24 利用実績(9~11月分)

1. 相談件数

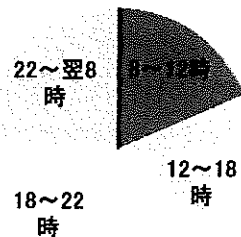
9月	10月	11月	合計	1日あたり
240	180	226	646	7.1

2. 相談対象者年齢別集計



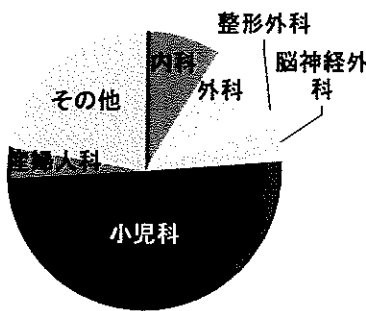
区分	件数	%
乳児	80	12.4
幼児	266	41.2
小学生	85	13.2
中学生	20	3.1
高校生	5	0.8
18・20~30代	84	13.0
40~50代	63	9.8
60~70代	36	5.6
80代~	7	1.1

3. 受付時間別集計



時間帯	件数	%
8~12時	120	18.6
12~18時	168	26.0
18~22時	202	31.3
22~翌8時	156	24.1

4. 診療科別分類集計



診療科	件数	%
内科	58	9.0
外科	44	6.8
整形外科	26	4.0
脳神経外科	26	4.0
小児科	325	50.3
産婦人科	24	3.7
その他	143	22.1

うち小児科		
相談分野	件数	%
循環器	3	0.9
呼吸器	18	5.5
消化器	32	9.8
腎・尿路系	4	1.2
感染症	153	47.1
アレルギー	9	2.8
予防接種	13	4.0
転倒・誤飲等	31	9.5
発育・生理	3	0.9
育児	16	4.9
その他	43	13.2

※その他は、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、歯科、心療内科、精神科、その他

5. 結果別分類集計【小児科】

事前の状態	相談結果	件数	%
未受診	家庭看護・応急処置	39	12.0
	平日一般外来へ	14	4.3
	適正科・病院案内	65	20.0
	その他	80	24.6
既受診	病気・検査の理解	17	5.2
	平日再診へ	6	1.8
	その他	38	11.7
受診を伴わない単純相談(悩み等)・質問		66	20.3

※その他は、相談の結果、受診の必要がなくなった等

## 桑名市母子保健事業に係るデータ等

## 1. 赤ちゃん訪問実施状況

(単位:人・%)

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
出生数	1,254	1,197	1,241	1,263	1,257	1,255	1,242
訪問実人数	193	304	283	143	822	1,007	1,139
実施率	15.3	25.4	22.8	11.3	65.4	80.2	91.7

## 2. 乳幼児健診実施状況

(単位:人・(%))

	H18	H19	H20	H21	H22
4か月	1,175 (90.2)	1,254 (97.6)	1,186 (95.2)	1,202 (97.2)	1,247 (101.5)
10か月	1,138 (87.2)	1,168 (89.8)	1,166 (89.7)	1,105 (90.1)	1,178 (93.3)
1歳6か月	1,238 (95.8)	1,160 (94.1)	1,240 (96.0)	1,258 (96.3)	1,196 (97.9)
3歳	1,223 (89.0)	1,242 (91.6)	1,203 (91.3)	1,154 (90.2)	1,264 (94.0)

\* 数値は、三重県母子保健報告 \* H22については、実績

## 3. すくすく教室実施状況

(単位:人・(%))

	対象者数	参加児数	参加率	父親参加数
H21	1,099	584	53.1	47
H22	1,131	659	58.3	47

## 4. 育児相談

(単位:人)

	H19	H20	H21	H22
回数	29	29	28	30
人数	845	932	1035	1091

## 5. すくすく相談

(単位:回・人)

	H19	H20	H21	H22
回数	36	36	36	36
人数	127	144	158	159

## ○桑員地区合同乳幼児健診委員会

平成14年6月から桑員地区の小児科医、保健所長、保健所保健師、市町保健師等が2か月に1回、会議を実施しています。

近年の議題は、主に4か月・10か月健診フォロー状況報告、市町・保健所からの事例検討を実施しています。健診フォローの報告では、医療機関で経過観察としたケースに市町でどのように対応し、どのような経過をとっているか等を報告しています。事例検討では、医療機関との連携についてや病気の経過、ケースの対応方法について検討しています。その他、予防接種、疾病について等の情報交換も実施しています。

## ○出産前後保健指導事業

三重県産婦人科医会、三重県小児科医会、三重県医師会、三重県健康福祉部こども局が主体となって無料相談を行っています。生まれて間もない赤ちゃんとの生活に不安になったり、とまどったりしないように産婦人科医の紹介で出産前後において小児科医から子育てについて説明、指導等を受けられる制度で相談もできます。



# 兵庫県立柏原病院の小児科を守る会について

県立柏原病院の小児科を守る会ホームページから抜粋

## 発足の経緯

丹波市内で唯一、小児の入院を扱う「兵庫県立柏原病院」の小児科が、閉鎖の危機にあることを知ったのは2007年4月のことでした。

2人しかいない柏原病院小児科の先生のうち1人が県の人事で院長に就任。

現場に残されたもう1人の先生が「これ以上の負担に耐えられない」と退職の意向を示されたという衝撃的な記事が地元丹波新聞に掲載されました。

その後、記事を書いた足立智和記者の呼び掛けで座談会が開かれました。

座談会の目的は「柏原病院小児科・産科の危機を子育て世代はどのように感じているか？」ということ、記者自身が知りたいというものでした。

『そんなの困る』『何でこんなことになったの?』『これからどうしたらいいの?』  
母親たちからの不満めいた声が続く中、足立記者が「お医者さんの勤務がどれだけ過酷か知ってる?」と声を掛けると、その場にいた1人の母親が体験談を語り始めました。

~~~~~

喘息発作の子どもを連れて夜間救急を受診した。

夜8時に病院に行くと、すでに30人ほどが待っていた。

やっと診察の順番が回ってきたのが午前2時。

入院が決まり病室に通されたのは明け方の4時だった。

そのまま親子で寝てしまったが、翌朝目を覚ますと「処置しておきました」と書かれた置手紙がベッドサイドにあった。

そして、翌日も普段どおりに診療を行う先生を見たとき、

「先生、寝てないんだ」ということに気が付いた。

「うちの子の病気のこと考えたら、

柏原病院の小児科がなくなるんはほんまに困るんや・・・

でも、先生のあんな姿見とったら『辞めんといて』とは、よう言わん・・・」

~~~~~

最後は涙声になっていました。

先生に辞められたら本当に困ってしまう、そんな母親が、そこまで言うなんて・・・。

それほど先生方は疲弊していらっしゃるのか・・・。

子どもが幸い健康で、柏原病院にかかったこともないような他の参加者にとって、この言葉は本当に衝撃的でした。

それまで不平・不満を口にしていた様子はガラリと変わりました。

私たちは、お医者さんの過酷な勤務実態、またその一因に、患者の無理解による「コンビニ受診」があるのだということを知りました。

これ以上「先生頑張って」なんて言えない。

この現状をもっとたくさんの人に伝えなければ！

たとえこのまま先生が辞められても、住民に非難されるようなことになってほしくない。

これまでお世話になった先生のために何ができるだろう？

あれこれ考えた末、私たちは署名活動を始めました。

5万筆を超える署名を県へ提出したものの、期待していた結果は得られませんでした。

行政の対応を待つ間に、お医者さんはどんどん疲弊し、地域から立ち去ってしまうかもしれない……。

私たちは学びました。

『人任せにしても解決しない』

行政に頼るだけではなく私たち自身が行動し、お医者さんが働きやすい地域を作るしかないと感じました。

お医者さんの増員を願うのではなく、今いるお医者さんを大切に作る地域づくりを進めていこうと決意したのです。

そして住民として出来ることを3つのスローガンに込め、活動を展開するようになりました。

### 3つのスローガン

1. コンビニ受診を控えよう
2. かかりつけ医を持とう
3. お医者さんに感謝の気持ちを伝えよう

）- 次

「コンビニ受診を控える」ということは決して「無理して我慢する」ということではありません。ここでいうコンビニ受診とは、軽症にもかかわらず、二次救急のための夜間外来を自己都合で受診することです。

本当に必要な人が必要な時に医療を受けられるように、また、病院の勤務医の負担を減らすためにも、症状に応じて病院と診療所（かかりつけ医）を使い分けるよう呼び掛けています。

『軽症の人は、より重症な人に診療の機会を譲りましょう』ということです。

軽症ですぐに二次救急病院を受診するのではなく、まずは「かかりつけ医」で受診しましょう。

そのためにも普段から気軽に相談できる「かかりつけ医」を持つことが大切です。

守る会が活動を始めて間もない頃、「コンビニ受診を控えよう」という呼び掛けが先行し、かかりつけ医への受診をも控えてしまう保護者が増えていると知りました。

症状が悪化してから受診するため、かえって柏原病院への紹介が増え、勤務医の負担になっていると市内の開業医さんから教わりました。

このことがきっかけとなり、「コンビニ受診を控えよう」「かかりつけ医を持とう」これら2つのスローガンは必ず併せて伝えるよう注意を払っています。

「お医者さんに感謝の気持ちを伝えよう」

医療が進歩した今、治って当たり前という思い込みはないでしょうか？

具合が悪い時に、いつでもお医者さんに診てもらって当たり前という気持ちはないでしょうか？

その考えを改め、日ごろの感謝の気持ちをきちんと伝えることがとても大切だと思います。

お医者さんに感謝の気持ちを伝えるということを多くの人に実践してもらいたいという思いから、柏原病院小児科外来の窓口に「ありがとうポスト」を設置させてもらっています。

集まったメッセージは小児科前の廊下に掲示しています。

また、講演に招待された先でも「ありがとうメッセージ」を書いていただこうと今では「ありがとうポスト」を持って、いろいろな所へ行っています。

皆さまに書いていただいた「ありがとうメッセージ」は一枚ずつ宛先を調べ、宛名にあるお医者さんのもとにお届けしています。

感謝の輪（和）が全国に広がることを願っています。

平成23年12月5日

桑名市健康づくり課  
地域医療対策室長 様

小児医療を守ろう会  
代表 [REDACTED]  
住所 桑名市 [REDACTED]  
電話 [REDACTED]

## 質問書

拝啓

貴会、ますますご隆盛のことと、お喜び申し上げます。

さてこの程、小児医療を守ろう会というサークルを立ち上げ、活動を開始しております。小児医療を守ろう会は、桑名市の小児医療の現状に危機感を持って立ち上げた会です。つきましては、現在の桑名市の状態について、いくつか質問させて頂きたく、お答えいただければ幸いと存じます。

どうぞ、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

敬具

## 記

- ① 桑名市民（小児患者）が救急車を要請した場合、どこの病院に搬送されていますか。また、病気、怪我、交通事故の場合とも同じなのか、違うのでしょうか。
- ② 小児とは14歳以下だそうですが、救急の場合でも厳密に14歳とくぎられているのでしょうか。
- ③ 愛知厚生連海南病院に、受け入れ要請されていると聞きましたが、弥富市、もしくは愛知厚生連に対する、市の予算も要請は出されていますか。
- ④ 救急ではなく、外来で入院が必要だと、判断された患者に対しては、どのような対応をするようにされていますか。
- ⑤ 添付書類は、作成中の、小児医療を守ろう会の一般市民向けチラシです。内容に不備、誤り等、ありましたら、こちらもご指摘、ご指導をお願いいたします。

※12月12日に返答を頂きに伺いますので、よろしくお願いいたします。



【小児医療を守ろう会】の紹介

～小児救急の無くなった桑名市で子供たちをどう守ろう？～

今、桑名市では小児救急を見てくれる病院はありません。

市内で唯一、夜間・休日の小児救急を受け入れている山本総合病院の小児科常勤医が2人から1人になってしまい、救急患者、入院患者の受け入れができなくなりました。そのため、桑名医師会らが運営する応急診療所もこれにともない、平日の夜間は無し、土曜日午後8時～10時、日・祝日午前9時30分～正午、午後1時～4時のみとなってしまいました。今現在は、山本総合病院の医師はさらに減り、市内の勤務医は市民病院に一人のみです。

この状況というのは、たとえば、嘔吐下痢症が悪化・肺炎などになっても入院する場所が市内にない、けいれん、ぜんそく発作、アレルギーによるアナフィラキシーが万一起きた場合、救急車で運ばれる病院が市内には無いということです。

これってすごく怖いことじゃないでしょうか？子供が急変したら、事故にあったらどうしたらよいのでしょうか。

今、子育て中のママたちに何かできることはないでしょうか？そんな思いから始まった会です。

行政に頼るだけではなく、私たちが住みよい地域にするために私たちができることから何か始めましょう。

《自分たちにできること》

- 1、小児救急が無くなり、大変な状況にあることを多くの人に知ってもらおう。
- 2、小児救急が無くなってしまった今、自分たちで子供の命を守れるようにお母さんたちで知識を持とう。
- 3、コンビニ受診を減らそう。

軽症にも関わらず、時間外に受診することは、勤務医を疲弊させ、また重症の人の診療の機会を奪うことにもなります。気軽に時間外に受診することはやめ、時間内にかかりつけ医にかかりましょう。

【小児医療を守ろう会】では、メンバーを募集しています。

たいへんなことは何ともありませんので、興味のある方は気軽に参加してください。

活動内容： 広報、啓蒙活動、勉強会の開催など。

〈代表〉

←こちらまで連絡してください。

13期 2011年(平成23年)6月25日 土曜日

# 小児の2次救急 休日と夜間中止

## 桑名市 医師不足で来月から

桑名市の小児医療が危機を迫っている。同市で唯一、夜間・休日の小児の2次救急患者を受け入れている山本総合病院の小児科常勤医が2人から1人になり、救急患者や入院患者の受け入れができなくなるため、当面は近隣の病院に搬送を求め対応する。同病院では7月、三重大学医学部から後任の小児科常勤医が赴任するが、経路中のため、8月中旬から臨時医の手定めという。小児科部長の川崎隆雄(57)は「1人では救急や入院の対応は難しい」と、7月から夜間・休日の2次救急の受け入れを中止。8月中旬からは入院の受け入れも中止する予定だという。

時は県立総合医療センター(四日市市)に勤務している三重大学の小児科部長が交代で救急搬送を補った。同病院の奥村秀郎(57)院長は「大変厳しい状況になった。これまでも色々やりくりして小児2次救急を維持してきたが、今回の事態は非常に深刻だ」と話す。同市では、夜間・休日の1次救急診療は桑名医師会などが運営する応急診療所が担っており、現在、同医師会が近隣の県立総合医療センターや四日市市立四日市病院、海陽病院(愛知県新城市)などに2次救急や入院受け入れの協力を要請している。

桑名医師会の伊藤純一(57)会長は「話を聞いたときは驚き、的だった。早く市医師会と統合した新病院として、三重大学からきちんと医師を派遣してもらう態勢にするべきだ」と指摘する。当面の運用については「1次救急はこれまで通り応急診療所を頼る」と話す。同医師会は20日に記者会見を開き、今後の対応を説明する予定だ。(福野直也)

## ナーシングホームもも 代表者 福本さんからの聞き取り

2011.12.21

## 1. ナーシングホームももが小児に関わるようになったきっかけ

- ・名古屋市内の三次医療機関の MSW から問い合わせが市障害福祉課か桑名保健所にあり、24 時間対応可能な訪問看護ステーションとして紹介をされたことによる。

## 2. 現在の小児への関わり状況

- ・難病児、重度障害児を訪問看護している

桑名市内 2名

Sちゃん：気管支軟化、人工呼吸器、胃ろう

- ・以前は毎日、訪問していたが、現在は月 2 回位
- ・2 歳までベッドから背中を離すことができなかったが、6 歳となった今は杖を使って歩行できるまでになった（動画あり、提供可能）
- ・療育センターに週 3 回通所
- ・両親が非常に熱心である

Aちゃん：メンケル病（銅が足りない）、チスチニン注射をしている（週 2 回）

- ・市内病院で通院リハ
- ・療育センターに通所

東員町 4名

いなべ市 2名

## 3. 連携の状況

- ・小児医療機関

名古屋第一赤十字病院

愛知県コロニー中央病院

あいち小児保健医療総合センター

草の実リハビリテーションセンター 等

- ・小児科診療所
- ・桑名保健福祉事務所
- ・桑名市障害福祉課、桑名市療育センター 等

## 4. 桑名市の小児医療体制に望むこと

- ・診療所の医師がもっと往診をしてもらえるようになると思う。
- ・医師の輪番制でもよいので、桑名市内で、せめて軽症の入院ができるようになると、ちょっとした病気なら遠くに行かなくてもよくなる。

## 5. その他

- ・名古屋市内の病院は重症の小児患者でもどんどん退院させている。その際、家族には人工呼吸器や吸引、酸素濃度などの取扱いについてしっかりと教育をしている。
- ・医療機関や福祉関係機関など周囲の環境によって、子どもたちの可能性は無限に広がることを多くの人に知ってもらいたい。

市内(一部いなべ市含む)医療機関分娩件

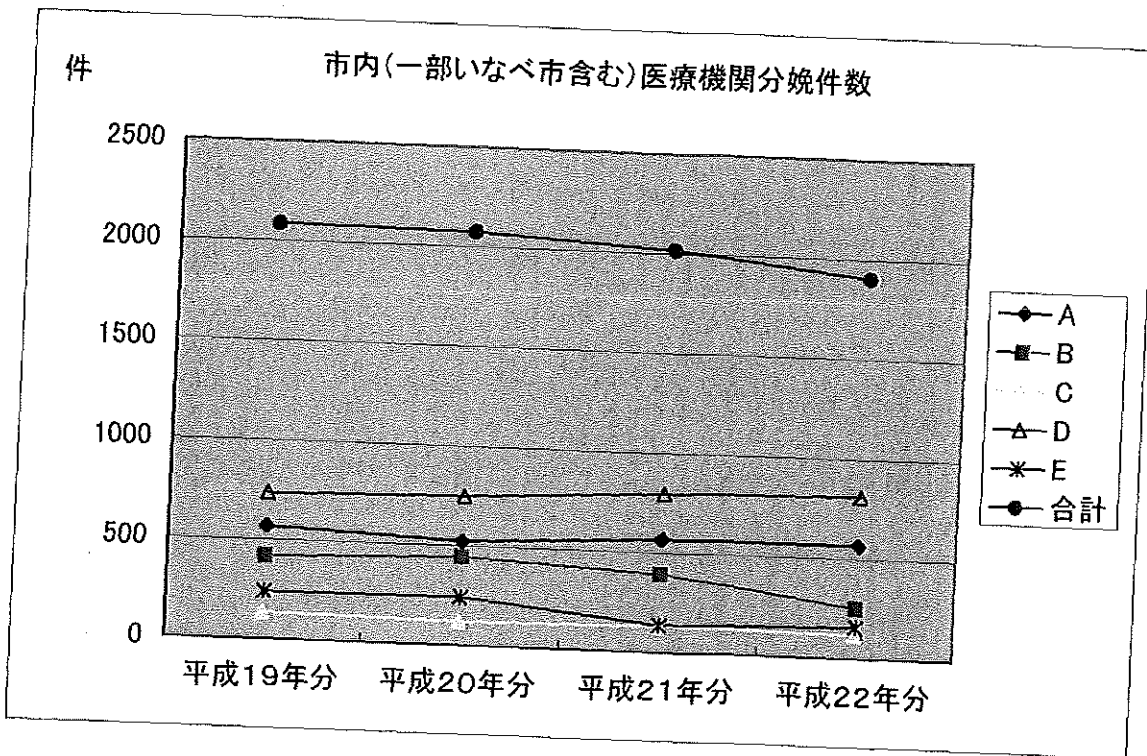
(単位:件)

医療機関名	平成19年分	平成20年分	平成21年分	平成22年分
A	566	523	565	565
B	416	443	391	252
C	133	120	130	120
D	732	748	795	810
E	239	241	136	156
合計	2,086	2,075	2,017	1,903

\* 件数は平成19,20年分は各医療機関に聞取りしたもの

平成21,22年分は県医療政策室から情報提供

\* 件数には、市外の方含む



22回

(2) 桑名市の小児医療体制への提言に向けてご議論頂きたい事項について

○一次医療、二次医療の役割分担と連携

- ・母子保健施策との連携と支援
- ・児童福祉施策との連携と支援

○二次医療を担う病院の診療体制の再構築

○市民協働の推進

- ・急病時の対応の相談、支援
- ・適正受診の啓発と市民活動の支援



## 桑名市小児医療対策会議スケジュール (案)

会議は、1ヶ月に1回を目途に開催し、平成23年度中に桑名市小児医療提供体制についての提言を取りまとめる。

回数	開催時期	内容
第1回	平成24年1月5日	桑名市の小児医療の現状と課題について 桑名市の小児医療体制への提言に向けてご議論頂きたい事項
第2回	平成24年1月 <del>末</del> 頃 30	桑名市の小児医療体制に関する提言について (第1回会議での桑名市への提言内容に基づく議論) PM7:30v
第3回	平成24年2月頃	桑名市の小児医療提供体制への提言(案)について
予備	平成24年3月頃	